

東奥日報

2025年(令和7年)11月13日(木曜日) (22)

県出展の園芸博 ハ工大生が庭園デザイン

リンゴモチーフ 本県の魅力表現



リンゴをモチーフに本県の魅力を表現した国際園芸博のデザイン案（県提供）

県は、本県の造園技術や地域資源のPRのため、2027年3～9月に横浜市で開催される国際園芸博覧会に出展する。八戸工業大学の学生たちが本県の出展デザイン案を考え、12日、県庁で宮下宗一郎知事に完成した案を報告した。学生たちは本県の魅力を「時間の蓄積から生まれた価値」と定義し、リンゴ箱やリンゴの木を用いた庭園で表現した。

（海野良拓）

県は将来を担う若い世代に着想してもらおうと、同大学に制作を依頼した。手を挙げた感性デザイン学部2年生7人が約半年をかけ、案を練り上げた。

庭園のテーマは「150年の実り、未来への根ざし」。リンゴをモチーフに、過去、現在、未来の時間軸を表した。外壁にはリンゴ箱を使い、リンゴ模様で「青森」「AOMORI」の文字を描いている。

学生の報告を聞いた宮下知事は「すばらしいストーリー性と感性の輝きが見えた。青森らしい空間に仕上がっているので、完成を楽

しみにしてもらいたい」と話した。デザインに携わった河村美来さん（八戸市出身）は「青森県の魅力が世界にどう伝わるか楽しみ。写真もたくさん撮ってほしい」と話した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」